

東公民館

緋のかぶ栽培と漬け込み

北伊予校区老人クラブ会長 松田 修

私たちは北伊予校区老人クラブ会員は「高齢者の生きがいと健康づくり事業」として、緋のかぶ、赤かぶを3アール余りの休耕田に栽培し、漬け込み作業を実施しています。

この事業も今年で7年目を迎えました。一度として休む年もなく、継続できているという事は、松前町行政の援助と東公民館のバックアップが大きい力になっていると思います。

しかし、9月に播種をして、収穫、漬け込みの12月までには延べ200余名の会員の協力が不可欠なわけですから、会



▲9月の播種



▲汗を流した除草作業

員相互の共通理解と積極的な協力がなければ目的を達成することはできません。

除草や間引きなどの作業風景を地域の大勢の方が見ていて、和やかな雰囲気や協力的な態度に感心して激励してくださることも二度三度です。

また、今年12月の収穫期には愛媛新聞社の取材があり、さらに試食会にはJA松山の広報「だいち」の取材もありました。このように、各方面から激励や関心を示していただくことは、会員の励みにもなっています。

漬け込んだ手作りの完成品

(緋のかぶ、赤かぶ)は、色鮮やかで、新鮮な地域の伝統食品です。試食していると、その味のおいしいことに感激し、すべての苦勞を忘れて笑顔になります。そしてまた、来年度の抱負などを語り合っているのです。

完成品は町内の老人福祉施設に一番先にお届けし、小・中学校及び幼稚園にも試食をしていただき、三世代交流の絆をさらに強く、深くしていきます。そして、多くの方が毎年楽しみに待っていてくれるようです。

このように、差し上げた時の方々の笑顔にさらなる生きがいを感じています。

また、老人会などの場で白石町長さんがよく言われる「老人力」にもお応えできていると確信しています。



▲12月の漬け込み作業

ふるさとをたずねて

窪田節二郎さん

文化財保護審議会委員

重川雄才

窪田節二郎翁は弘化4年(1847)に伊予郡昌農内村庄屋の長男として生まれ、嘉永5年(1852)5歳にして父守一の後を継ぎ庄屋役についた。

明治5年、25歳にして第七小戸長、第十五大戸長、同7年昌農内村文明学校幹事についた。同12年第一回県議会議員選挙に当選し、その間副議長に選任されるなど初期県政に多大の貢献をした。

少年時代から幕末動乱期に庄屋を務めた豊富な経験と10年にわたり師事した南黒田村庄屋鷲野南山の指導により養われた見識によって、地区行政に縦横の活躍をした。

また、義農作兵衛の顕彰に意を用い、明治14年義農神社の設立に多大の尽力をした。更に明治23年第五二銀行取締役となり、農耕銀行の取締役も兼務した。

同27年には昌農内村水利に關し、恵久美村旧庄屋和田鹿太郎、上高柳村旧庄屋武市英俊とはかり、抜本的な解決策

をたて、昌農内地域の水利権を確立した。

明治31年には岡田村長となり、また村会議員も務めた。同43年には岡田村耕地整理組合長に就任し、困難な耕地整理事業を完遂した。

その後松山市に転居し、市議會議長として松山市政に頗る貢献した。

窪田翁は昭和8年12月に永眠されたが、60年の長きにわたり村民を指導され、その功績は枚挙にいとまがない。翁の没後地区民はその徳を慕い、頌徳碑を隅田川畔に建立した。また、義農神社境内にも頌徳碑が建てられ、村人あげて遺徳を偲んでいる。



▼窪田節二郎頌徳碑(昌農内)

「題辭」は若槻礼次郎「撰文」は井上要